東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Vol.44　第2181回例会　2011.9.1

今年度会長テーマ　和の心　自然に学びて未来を創ろう

■司会：
石山例会運営委員

■点鐘：小町会長

■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
中條会員

■お客様紹介：
嶋田パスト会長

◆ゲスト：米山奨学生　朴　動浩 様
入会予定者　荻野　昇 様

■会長報告　小町会長

皆さんこんにちは、今日は防災の日です。3月11日の東日本大震災より早くも半年になろうとしています。巨大地震と大津波、原発災害と想定外とは言ってはいられない被災地の復興はなかなか進まないのが現状です。原発事故の放射能被害における住民はもちろん海外からの観光客の減少も大きな影響を受けています。我がクラブも復興への義援金の使途について次回の例会において皆さまと討議したいと思います。
今月は新世代のための月間です。この度の震災も含め少子高齢化社会になっていく日本のなか、これからの時代を担う若い世代に夢をもっていける活動をしていきたいです。物から心の時代と言われる中、我々はいのち、絆の大切さを認識しこの青い地球で生きていく喜びを沢山感じられる社会にしていく義務があると思います。ＲＩ常設、新世代のプログラムはインターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者育成プログラム、ロータリー青少年交換の4つがあります。我がクラブも1975年にローターアクトの提唱を始め16年間にわたり30歳未満の若者に交流と活動の場を作ってきました。会員減少で1992年に提唱に幕を下ろしました。私も43歳の時、委員長を仰せつかり沖縄大会、葉山でのクルージング等楽しい思い出があります。当時活発に活動されていました栗原芳男さんをご多用の中、本日卓話にお招きしました。当時のエピソード、これからの若者に送る言葉など聴かせて頂れると思います。
月始めです。職業奉仕の12章と国際ロータリー、カルヤン・バネルジー会長のテーマ「こころの中を見つめよう　博愛を広げるため」、強調事項として「家族、継続、変化」を唱和いただきます。また会長テーマ「和のこころ　自然に学びて未来を創ろう」をもとに、元気なロータリークラブをめざし、出席率向上のために楽しい例会企画のため、目時プログラム委員長をはじめ皆様の協力をお願いします。

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／赤木　盛一　樋口　剛史
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

■幹事報告　　野村(高)幹事

■第2580地区山本幹事：
地区幹事からの報告について
①卓話者リスト(第2180回例会にてプログラム委員長へ受け渡し済)の活用
②地区委員会の運営
ガバナー事務所以外から発信された場合も正式文書とみなす。
地区委員の名刺作成料、交通費等は原則本人が持つこと。

■ガバナー事務所：
ポリオのない世界のための奉仕賞推薦のお願い
資料①ポリオ・プラス活動の表彰について
②推薦書式
③基準と指針
〆切　9月30日まで

■東京秋川ＲＣ：
「アユの塩焼きを食べる会」案内の受理について
9月8日(木)　17:00～
於　森林村
会費　￥6,000(令夫人　￥3,000)

■例会変更：
東京秋川ＲＣ
9月8日(木)→夜間移動例会 他

■出席報告　　野村(裕)例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
31	24	0	4	85.71

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：4名
■前々回出席率メークアップ修正後：86.67%
■前々会メークアップ者：
飯田会員：京都西山ＲＣ
中丸会員：理事会
野村(裕)会員：東大和ＲＣ
田中会員：地区
漆原会員：財団
山宮会員：立川ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　　山宮クラブ管理委員

■皆出席：
土方会員(33回目)

■ご結婚祝月：
目時会員、小町会長

■会員誕生祝月：
野崎会員、戸澤会員

■令夫人誕生祝月：
漆原会員、山宮会員

■感謝状贈呈：
地区青少年交換委員会より交換学生ホストファミリーへ感謝状と記念品の贈呈
赤木会員

■奨学金贈呈：
朴　動浩 様

◆栗 原 様：本日は卓話にお招き頂きましてありがとうございました。頂きました謝礼は青少年育成の為に使ってください。
◆赤木会員：先週休みましたので、改めて8月20日の家族親睦例会大変ありがとうございました。
◆野澤会員：荻野さんようこそいらっしゃいました。入会お待ちしています。また栗原さん卓話よろしくお願いします。
◆小町会長、野村幹事：
栗原様、今日は突然の依頼にもかかわらず卓話を快く引き受けて頂きありがとうございます。荻野様、本日はようこそお越し下さいました。ジックリ観

察して下さい。
◆田中会員：荻野社長おめでとうございます。ゴルフ部のレベル一気に上がります。分区の優勝、地区大会の優勝と夢が一気に膨らみます。感謝、感謝です。
◆山本会員：本日は会員研修町田委員長の代理をいたします。不慣れですが、皆様よろしくお願いします。
◆漆原会員：栗原さんようこそいらっしゃいました。
◆金子会員、石山会員：
写真ありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　48,000円
累　　計　：　244,700円

■委員長報告

■田中ゴルフ部部長

今日は。分区のゴルフ大会の締切日が先週木曜日でした。参加者は11名でしたが、本日2名追加申込を受けました。今回のゴルフ参加申込に於いてもそうですが、いつも多くの会員より大変温かい手を差し伸べて頂いております。素晴らしい仲間が沢山いるので東村山ゴルフ部は益々栄えると思いますので、今後も宜しくお願い致します。

■山本会員研修副委員長

皆様、今日は。本日は町田委員長・樺澤委員不在のため、代理にて発表致します。
まずオンツーバンコクの件ですが、今日ＪＴＢさんより粗見積りを頂きました。参加費は登録料込みで25万円位の格安料金になると思われます。来年の5月5日ですので、大勢の参加をお願い致します。又今日、地区の委員会があり詳細がわかりますので又ご報告申し上げます。
続きまして、当月は、新世代月間であります。本日は元ローターアクトの栗原様の卓話を頂けますので私は、ロータリーの友の中で、カルヤン・バネルジーＲＩ会長が素晴らしいメッセージを書かれていますので、読ませて頂きます。

ロータリーの友1ページ「より若い会員をロータリーに」
ロータリー兄弟・姉妹の皆さん、私たちは2011-12年度の色を持っています。そして、その色は緑です。なぜ緑なのでしょうか。緑は新しい命の色、広がった枝からぱっと開く鮮やかな葉の色だからです。ロータリーにとって今が緑の時期であることには疑いもありません。
そして、私たちの深まりゆく青みがかった灰色からもっと明るい色合いの緑に置き換えるのです。

若い会員を連れてくる
全体として見てみると、40歳以下は11％にすぎず、それに対して50歳以上が68％、60歳以上が39％です。今、私たちが手をこまねいていると、10年後、20年後、そして30年後にどのような結果をもたらすことになるかは明白です。単に、新会員を入れるだけでは十分だとは言えません。私たちには、私たちの組織に新しい生命や活力を吹き込む、より若い会員を連れてくる必要があるのです。
当クラブの会員分布は、80歳台2名、70歳台6名、60歳台14名、50歳台5名、40歳台6名となっております。私たちが若い人たちにとって、より魅力的になるにはどうしたらいいでしょうか。
彼らは一世代、あるいは二世代前の専門職が若かったころとは多くの点でかなり異なっています。そのためには、私自身が彼らに歩み寄らなければなりません。
多くの若い世代、彼らの居場所はインターネット、フェイスブック、ツイッター、Ｅメール、それにスマートフォン上です。インターネット上に存在しないクラブは、若い世代に関する限り存在しないといっても過言ではありません。クラブのウェブサイトは公の顔なのですから、それは質の良いものでなければなりませんという内容です。会員の皆様、今後の会員増強の時に心の中に留めておいて頂ければと思います。

■卓話（新世代のための月間に因んで）

■卓話者紹介：小町会長

■卓話者：
元ローターアクト
東村山市役所総務部
管財課課長
栗原　芳男 様

ロータリアンの皆様、こんにちは。ただいまご紹介を頂きました栗原と申します。
今回、この場を与えて頂きました、小町会長様、そして村田委員長様に深く感謝致します。
何より30年以上前に、ローターアクターとして、東村山ロータリークラブの皆様には大変お世話になり、いつか皆様のお役に立てたらと思っておりました。
また、このほど小町会長様より卓話の依頼を頂きました時、最初は、ご丁重にお断りをさせて頂きました。それはローターアクターの諸先輩方がいらっしゃる中、私が出しゃばる様なことはいけないのではないかと思った事と、考えてみればロータリーの卓話を私が出来るのかなと思ったからでございます。
先ほど申し上げました様に、このたびは何も考えず、ただお役にたてられることが出来たらと思い、ここに

参りました。本日は宜しくお願い致します。
　さて、9月は「新世代のための月間」に指定され、年齢30歳までの若い人の育成を支援する、すべてのロータリー活動に焦点を当て、クラブ会報や広報資料に使うよう奨励されているとお聞きしております。
「年齢30歳までの若い人の育成を支援する」このことはローターアクト・プログラムに、若者が個々の能力の開発に当たって役立つ知識と技能を身に付け、地域社会において親睦と奉仕活動を通じて、全世界の人々の間に、より良い信頼関係を推進するための機会を提供することになっていると書かれておりました。
　なお、私の時代は28歳が退会年齢でございました。私がローターアクトクラブに入ったきっかけは、父親の代から公私共々お世話になっており、またローターアクト委員長でもありました土方様からのお誘いを頂きまして、入会いたしました。
　ローターアクトクラブになじめない私は、若い頃、やんちゃで、どうしようもないヤンキーで、クラブを休みがちだった私を、何度も何度も誘って頂き、「きっといつか分かる時が来るよ、よっちゃん。」と土方様から繰り返し言われ続けられました事を覚えております。
　まだ若かった私は、何故、他人の私をここまでどうして、と何度も自問自答を繰り返した時もありました。この時の例会場所はカクリボウル2階の会議室でした。入会して5年が経過し、そんな私に会長の選任があり、その後、分区代理、2580地区の代表もさせて頂きました。
　また、1987年の代表の時期に3年に一度行われる世界大会参加の話を頂き、各地区代表にご案内をしたところ、22地区の代表が一堂に会し、東京駅周辺に集合して2回の会合を開き、日本の代表に2580地区がなることが決定されました。この時の代表選出はプロポーザルで行われ、それぞれの挨拶にこんなエピソードがありました。代表には新国際空港のある成田の千葉代表へ、又世界の方が安心して利用できる港、横浜・横須賀の神奈川代表へ、されど国政を動かせる岩手、宮城代表へなどと色々なアピールがありました。
　大会は、イギリスのほぼ中央にあるヨークシャ洲・シェフィールド大学で7日間に渡り行われ、世界に107か国ある中の約三分の一の31か国、431名のアクターが集結いたしました。
　日本からは私を含め28名が参加し、大会では代表スピーチを務め、たくさんの素敵な人たちとの出会いがあり貴重な第2の青春を経験させて頂きました。帰国後、ホテルオークラかホテルオオタニで行われた、1986-87年度国際ロータリークラブ、第2580地区年次大会において、地区代表であられました(株)コロンブス会長、服部洌様、ＲＩ会長フランク・Ｊ・デブリン様をお招きした中で、地区青少年奉仕委員長でありました、青梅ロータリークラブ小沢秀明様とアクター15名参加のもと、世界大会参加について報告をさせて頂きました。(その時、写真のご提供をして頂きました、市川眞様、ありがとうございました。)
　そんな私をいつも支えて頂いたロータリークラブの皆様、土方様には、本当に感謝の意にたえません。そして、この年齢まで真面目にやってこられたのも、皆様のご理解とご協力と感謝しております。
　今後もロータリアン皆様のお力添えを頂き、若者が個々の能力の開発にあたって、役立つ知識と技能を身に付け、地域社会において親睦と奉仕活動を通じて、全世界の人々の間に、より良い信頼関係を推進するための機会を提供していけますようお祈り致します。
　ロータリーの友2010年9月号を拝見致しまして、ロータリーアットワークを読ませて頂きました。そこには、「ロータリーの翼」派遣生の受け入れ、第2520地区岩手県千厩ロータリークラブは30年前から高校生の相互短期交換事業を行い、岩手がテキサス州・宮城がオクラホマとの交換を実施。賛否両論の中、意見はあるようですが続けてきて良かったと書いてありました。また、気仙沼南ロータリークラブではローターアクターと恒例の下草刈りと桜の苗木の植樹を始めてから、10年目を迎えた、などと書かれ読ませて頂きました。まだまだ、インターアクトとローターアクト諸君が頑張っているんだと再認識致しました。そんな時、この間、休暇を頂き岩手県へ行って参りました。たまたま、色々なロータリークラブの看板を見かけ、あのクラブの名前はなんて読むのかなと思っておりました「千厩」は「せんやま」ロータリークラブだとわかりました。
　今年の3月11日に起きました東日本大震災被害は、何度も報道番組では見ておりましたが、復興は今どうなっているのか、また以前ローターアクト時代に交流のあった、あの場所はどうなっているのか、と思い立ち、そして東京が大震災により混乱を招くことになることを、この目で確認し現状を把握しておかなければ、そして、環境と被災者の立場に少しでも立ち、感じ取れるようにという思いで出掛けました。しかし被災地は、想像以上に予想をはるかに超え、被害の大きさを目の当たりに致しました。木造住宅は殆どが跡形も無く更地になり、鉄骨構造も2階まで使用できない状態のものが多く、ベニヤコンパネで囲ってありました。大変危険な建物については、赤ペイントによる解体サイン表示が至る所にされておりました。
　宮古市での高い防波堤も大津波により飲み込まれ、テレビ報道されたことは、記憶に新しいと思いますが、未だにビルの建物に船が覆い被さり震災被害の大きかったことが随所に見受けられました。
　一方、仮設住宅は学校や色々な地域に建っていましたが、生活感のある住宅は目視ではありましたが少なく、住民の方が入居しているようには思えませんでした。ご存知の通り、仮設住宅に入居すれば衣食住の、衣食は今後各々個人でやっていかなければならなく、これらについてもまだまだ時間がかかる問題の一つになっています。
　また宮古市の警察署に立ち寄りました。察署は漁港付近にあり被害も大きく、4階建の2階部分まで津波により被害を受け、執務は仮設事務所により行い、パトロールに使用しておりますパトカーは殆どが各都道府県からの応援パトカーでした。(表示は静岡、山梨、北海道警察等でございました。)　そして至る所に「がんばれ東北」の看板や横断幕を見て、地域の皆さんは本当に歯を喰いしばり、今必死に生きていると思い考えさせられました。一人の青年(30歳前後)と話す機会が出来、彼は「今は生きることを、どう前向きに考え、体(健康)をどう維持していくか。」と話していました。何故か別れたあと5ヶ月前のあの時のことと重なりあってしまい、涙が止まりませんでした。ボランティアの方々も必死に何とかこの町を復興させたいという意気込みが見られ、私は、勉強のために地域を見て回ってきましたが、心中はそんな穏やかではいられませんでした。東北の方々には本当に頭が下がる思いでいっぱいで、若者たちにとって精神的に辛く、これからは今までとは違う人生、考え方を持って、色々な意味で一人一人が立派に生きていって欲しいし、本当に一言では言い表せませんが、前向きに、努力して生き抜いて欲しいと心の底から思いました。今回の東北の地の経験は、私にとってもかけがえのない大変いい経験になりました。
　次に現代の若者について話します。まずニートについてですが、ニートとは、ニート発祥の地、イギリスの定義に近いといわれています。学校を卒業、または

ドロップアウトしたが、様々な理由で職に就かない。この時点では親も健在であるケースも多い。このまま一生を過ごせたらいいな、などと夢想しつつ自由を謳歌した気ままな生活を送るが、その一方で心配する両親を見つつ良心が疼く事もある。まだこの時期であれば、比較的ジョブチェンジしやすいが、ニート現象は年齢によりさまざまであり、20代後半になると同級生の結婚、出産、格差社会、下流社会等々あり、ひきこもる青年が多くなっております。このことは親にも問題があると言われています。

ここで2つほど、20代の方の考えを聞いてみました。内容は、20代青年が、今どのように世の中を見ているか、若者は大人にどうバックアップして欲しいか、若者は海外への視野をどう考えているのか、です。

①海外へ留学している方の意見

理想的なのはしっかりとした若者が中心になって、日本を創っていくこと。しかし、今の日本は少子化に伴う高齢化社会。それと子供を欲しいと思う夫婦の減少と働く女性が昔と違って増えた事。この問題をクリアにしていくには、育児のしやすい環境を与える事。例えば、夫と妻と平等に家事をこなし、お互い助け合わなければならない。また、会社や大学の敷地内に保育園を設置すると良いだろう。(私の通う大学内には保育園がある)

これにより、子育てをしやすくなる。しかし育児にはお金がかかる。それを助けるには国が補助してあげないといけない。

あと、日本の中心人物、すなわち首相が毎年のように変わる現代の日本は問題がある。中心人物がしっかりしていないと国民もついていかないし、若者はしっかりしないと思う。あげ足をとったりして、視聴率のためだけに無駄なことを流すテレビは、国民に首相に対する不信感を与え、結果、これが「首相が毎年変わる」に繋がる。

例えば、麻生総理は漢字を読み間違えたなど。(例えば麻生総理が良い首相だったかどうかとか詳しいことは分からないけど)日本人全てのお里が知れます。

優秀な若者を育成するために国が若者のためにお金の面で助けるべき。例えば日本学生支援機構は国内の大学の学生には無利息で奨学金を貸すのに対して、海外の大学に進学した学生には有利子で貸すのは間違っていると思う。これは海外で学びたい学生がお金の問題によって、海外の大学に行く夢を諦めることになる理由の一つである。

とにかく、国が国民に夢と希望を持たせ、勉強することの楽しさ、重要さを教えて、将来は色々な道があるよ、日本で勉強するのも海外で勉強するのもそれぞれ良い点があるよ、また、子供を産んでも、こういう施設や設備があるから働き続けることに支障ないよという事を子供の頃から教えてあげると良い。そういう風に日本が変わったら、より良い日本になると思う。

②交換留学生の意見

若者の海外への視野は、興味は持っていると思うけど、なかなか挑戦しようとは思っていない。それは、お金の問題があるのかもしれない。私が思うに、日本の企業に勤めるなら日本の大学ブランドで、新卒しか採らないとかいう変な制度があるから。それから日本人の大学生は、大学に入ればいいという変な考えを持っている。理由はおそらく、そんなに力を入れなくてもエスカレーター式に学年を上がっていけるから。だからサークルとかバイト、遊びばっかりして勉強に力が入ってない。見ていてそんな風に思える。

お金の問題が一番、それと同い年の人たちと生活を共にしたいと思っている人が多い。

大学を休業したら、おそらく戻ってきた時、他の学年の人と過ごさなければならないから。今、私のクラスには色々な人がいるけど、みんな個人個人の事を一番気にしているが、日本人みたいに優しく配慮しない。けれど、そういう自律心というか自分のために頑張っている人が多い。人の目を気にしていない。そこに何かがあると思う。

日本人は、人に流されたり気にしたりしすぎるからという理由からきているからかもしれない。

今の世の中、男性も女性も平等だからとよく聞くけど逆転現象なんて事は思わない。頑張った人、仕事が出来る人が仕事をすればいいと思う。だから女性が仕事場に増えようと男性が減ることでもいいのではないでしょうか。そういう考えを疑問に持っている人自体が古いと思う。そういう古い考えを持っている人が多いことに問題があるのではないでしょうか。

日本の政治家は圧倒的に男性が多いですがそれはおかしい事です。

以上、2点紹介させて頂きました。
最後に初代会長より頂きました詩を読ませていただき、終わらせて頂きます。

やる木(気)を育てよう

やる気という木は
大地に根性という根をはり、
大気中から本気を吸い込み
なにくそという肥料によって
会社を支えるのはお前だという枝を張り
気合という葉っぱを広げ
これでも花、という花を咲かせ
成果と確実という果実を実らせる

以上、ご清聴ありがとうございました。

■点鐘：小町会長